

長崎大学の感染症研究施設の今をお伝えする

BSL-4 Report

Vol.3
2021.1.



危険度の高い感染症に備える

世界は今、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症のパンデミックに翻弄されています。このように新たに出現する感染症の多くは、野生生物に共生・寄生して存続している微生物がヒトに伝播して引き起こす人獣共通感染症です。1970年代から、地球人口の激増、森林の伐採、灌漑やダム建設等による地球環境の激変によって、野生動物とヒトの生活圏の境界が無くなったために、新たな人獣共通感染症が次々に出現しています。さらに、交通網の発達によって、感染症は瞬く間に世界に広がります。

自然界には、野生動物に危害を及ぼすことなく存続している未知の微生物が数十万種存在すると推定されています。今後、未知のウイルスがパンデミックを起こす頻度は、ますます高くなるでしょう。その中にはエボラウイルスやSARS-CoV-2より病原性が高いものもあるでしょう。

これまで日本は、BSL-4施設が稼働していなかったために、危険度が高い感染症の診断、予防と治療法の研究を海外の機関に依存する、科学先進国としては恥ずかしい状況にありました。

長崎大学感染症共同研究拠点は、BSL-4施設の設置と稼働を通じて、長崎県、長崎市、ならびに地域住民の皆様の信頼と協力を基に、病原体の研究と、研究に従事する人材の育成を担う拠点を整備・拡充し、日本と世界の安全・安心に寄与してまいります。



2021年1月

長崎大学感染症共同研究拠点 拠点長

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 特別招へい教授 統括
喜田 宏

BSLとは、バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。

お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

フリーダイヤル 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、長崎大学感染症共同研究拠点ホームページをご覧ください。

ファックス 095-819-2960

ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

